

R4-R8の東牟婁地域等の減災に係る 取組方針(第2期)での特筆事例

●各機関の特筆事例

- 新宮市：避難体制の強化 河川監視カメラ映像配信（設置個所の増設検討）
- すさみ町：地区避難所の整備
- 那智勝浦町：ハザードマップの見直しを含む情報伝達の検討
- 太地町：避難行動要支援者の個別計画作成の促進
自治会単位での啓発活動の実施
- 古座川町：古座川における砂利採取
- 串本町：タイムラインの検証と改善
- 和歌山県、市町など：令和4年度 熊野川総合水防演習
- 和歌山県：水害リスク情報の高度化

取組内容

①情報伝達、避難計画等に関する事項

■住民等への情報伝達体制や方法について

・ウェブサイト、テレビで洪水予報、河川水位、カメラ映像、気象情報を提供

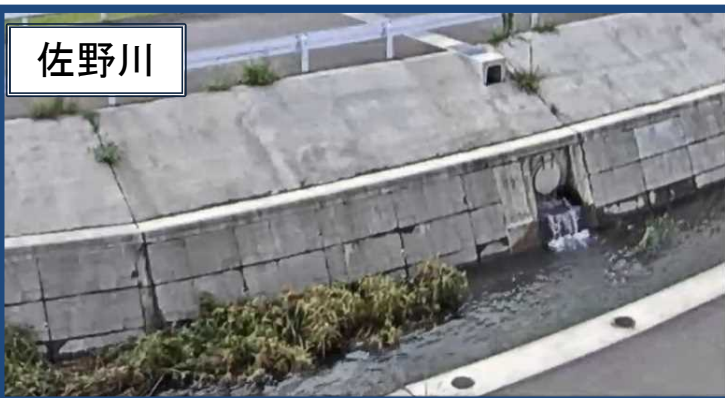
●避難体制の強化 河川監視カメラ映像配信(設置個所の増設検討)

取組概要

令和2年度に一般公開用河川監視カメラ1台設置し、令和3年9月より、住民向け映像配信を開始

映像の公開により、河川の状況を把握し、住民の早期避難に結びつくことを期待し、啓発している。⇒ 増設検討

佐野川



国土地理院 | ID2万5千分1地形図名: 新宮(田辺号-2) (中心の図葉名)
 中央の経緯度 北緯33度41分16.8秒 東経135度58分46.4秒 | トップページ(利用法) | 質問 | 地図検索ページ | 広域地図 | 地図が表示されない場合はこちら

設置箇所

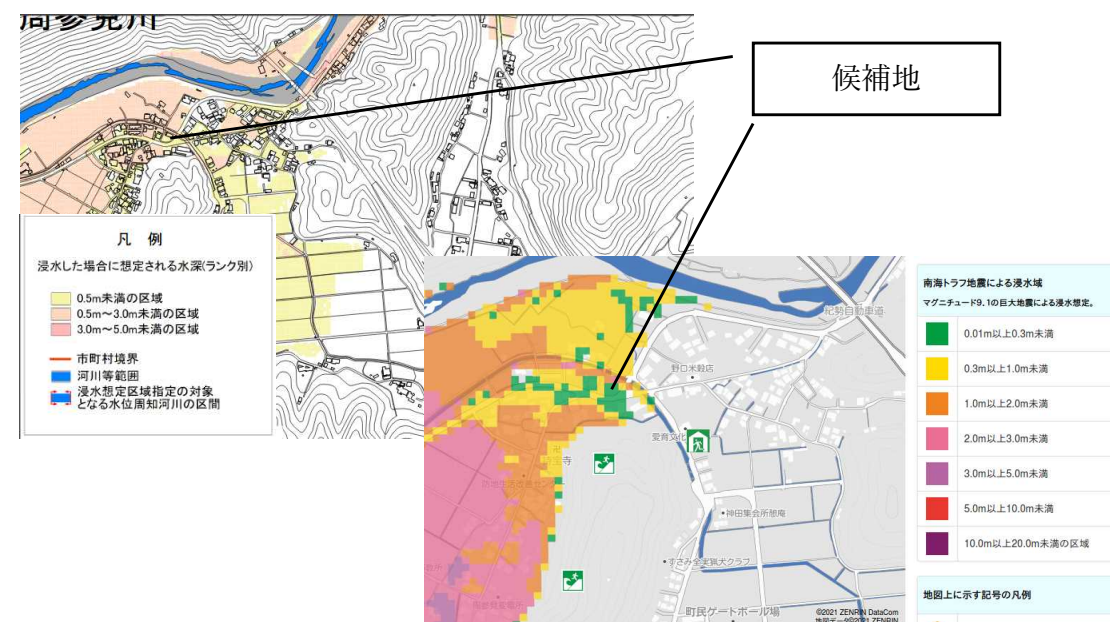
1/12500

令和4年以降、佐野川の河川改修を踏まえ、佐野川と支流の荒木川について、追加で必要箇所を検討し、増設していく予定。

取組概要

現況(令和3年12月現在)

- ・整備地付近は南海トラフ大地震による津波と想定最大規模降雨による周参見川の洪水浸水想定区域。
- ・現避難所は、耐震性がなく1階部分は浸水すると想定されている。
- ・津波が到達するまで一定の時間はあるものの、付近の山にある緊急避難場所への道は石積みの階段や山道であるため高齢者など避難に時間を要する住民が安全に避難するのが困難。
- ・建設予定地の標高が低く津波・洪水の浸水リスクがあるため、浸水に耐える造りとするよう敷地の嵩上げと建物構造を検討しながら設計中。
- ・令和4年度中に工事完了予定



取組内容

①情報伝達、避難計画等に関する事項

■避難場所・避難経路について

・分かりやすく、利活用されるハザードマップの作成、周知に向けた検討

●ハザードマップの見直しを含む情報伝達の検討

取組概要

・想定最大規模の浸水想定区域図に基づくハザードマップについては、令和2年度に作成済。

※令和3年5月20日、HPへの掲載及び各戸配布による公表を完了

・町全域の土砂災害・洪水に関するハザードエリアを1冊の冊子として取りまとめたものである為、住民等より閲覧・確認のしにくさについて指摘あり。

・地区ごとに細分化したハザードマップの作成、WEB版等あらゆる媒体を活用した情報伝達について、引き続き検討。



取組内容

①情報伝達、避難計画等に関する事項

■避難誘導體制について

- ・避難行動要支援者の個別計画作成の促進
- ・避難行動要支援者の参加する避難訓練の実施

- 避難行動要支援者の個別計画作成の促進
- 自治会単位での啓発活動の実施

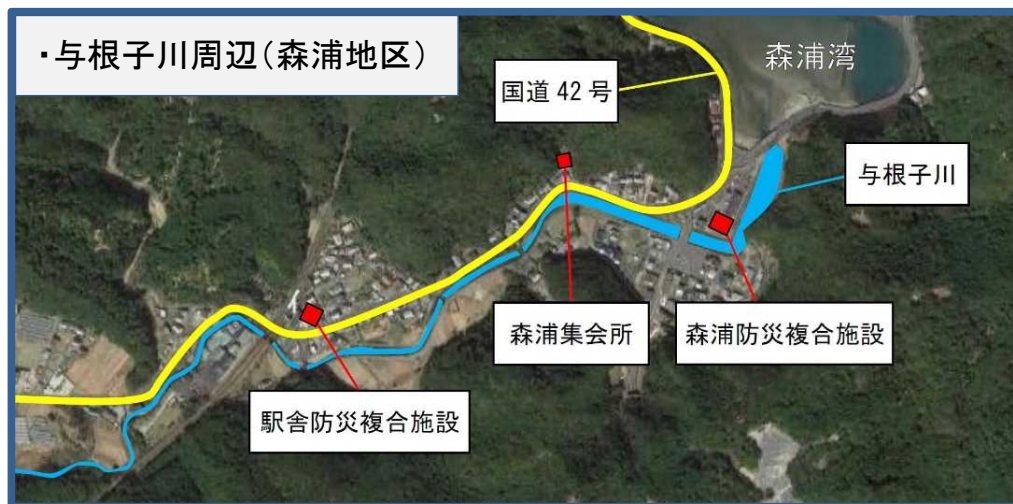
取組概要

○ 取組に対する町の考え方

本協議会の目的である河川流域の大規模氾濫を前提とした洪水への備え「水防災意識社会」再構築を踏まえ、河川流域の防災力の強化に努める。さらに、各種取組の推進から全町の防災力の強化につなげていくとともに、住民自ら防災力の強化に取り組む環境を醸成する。

○ 町内の河川の状況

森浦地区には、与根子川が国道42号に沿うように流れており、周辺に集落が形成されている。近年、大規模な氾濫は発生していないが、台風や豪雨時、満潮時間と重なる場合、高水位となるため監視体制を強化している。



○ 取組詳細

◆ 避難誘導體制について

- ・避難行動要支援者の個別計画作成の推進
- ・避難行動要支援者の参加する避難訓練の実施

当町の高齢化率は、令和3年10月時点で44.4%となっており、中には迅速な避難が難しい要支援者も相当数存在すると思われる。この状況を解消するため、要支援者の把握に努めるとともに、個別計画の作成を推進する。

森浦地区は、川沿いを中心に集落が形成されており、水害のリスクが高いため、迅速な避難が行えるように進める。

【参考(R3.10.1時点):森浦地区の住民 137世帯 230人
うち、与根子川周辺の津波浸水想定(L2) 87世帯 157人】

◆ 防災に関する啓発活動について

- ・自治会単位での啓発活動の推進
- ・防災(水防)訓練の実施

災害への対応は、個人の防災意識向上が不可欠である。これらを踏まえ、住民自らが現状を把握し、自助、共助で災害に備える体制づくりを推進する。

取組内容

⑤河川管理施設等の整備に関する事項

■河川管理施設の整備状況

・砂利採取

●古座川における砂利採取

取組概要

●古座川町では、町および民間事業者による砂利採取を実施。

○古座川町

| | |
|-----------|---------------------------|
| ①H24. 11月 | 約 2, 9 0 0 m ³ |
| ②H24. 11月 | 約 2, 9 0 0 m ³ |
| ③H26. 6月 | 約 2, 9 0 0 m ³ |
| ④H27. 1月 | 約 2, 9 0 0 m ³ |
| ⑤H27. 9月 | 約 1, 8 0 0 m ³ |
| ⑥H28. 3月 | 約 2, 7 0 0 m ³ |
| ⑦H29. 1月 | 約 2, 5 0 0 m ³ |

○民間事業者

| | |
|-----------|---------------------------|
| ①H25. 8月 | 約 2, 8 0 0 m ³ |
| ②H25. 9月 | 約 6, 0 0 0 m ³ |
| ③H25. 11月 | 約 7, 0 0 0 m ³ |
| ④H27. 3月 | 約 2, 3 0 0 m ³ |
| ⑤H27. 7月 | 約 2, 9 0 0 m ³ |
| ⑥H27. 8月 | 約 3, 0 0 0 m ³ |
| ⑦H27. 12月 | 約 8, 0 0 0 m ³ |
| ⑧H29. 1月 | 約 4, 5 0 0 m ³ |
| ⑨H30. 11月 | 約 3, 0 0 0 m ³ |

砂利採取状況



取組内容

①情報伝達、避難計画等に関する事項

- 避難情報の発令について
- ・タイムラインの検証と改善

●タイムラインの検証と改善

取組概要

| | 想定日時 (上陸等の) | 総括 給務課 | 避難所設営 福祉課・ こども未来課 | 物資準備 住民課・会計課 | 情報提供 企画課 | 道路・施設管理 建設課・水道課 産業課・教育課 | 被害調査 税務課 |
|--------------|-----------------------|---|--|---|--|--------------------------------|---|
| 台風上陸 の可能性 | 3日前 台風予報・ 気象台情報 | ○配備体制の検討 ・各課に配備体制連絡 ・関係機関と情報共有 | ○避難所の開設準備 ・各区長に事前連絡 ・各課に開設の依頼 | ○避難所物資準備 (毛布・食料・避難者名 簿・ベッド・ラジ等) | ○メディア対応 ・ホームページ更新 | ○所管施設へ連絡 ・土のう等の確認 | ○調査準備 ・調査用具の確認 ・調査体制の調整 |
| 災害発生 の可能性 | 1日前 | ○大雨・暴風警報等 ○高齢者等避難発令 ・防災行政無線放送 ・県防災情報システム | ○避難所開設 ・開設時間を調整 ・職員派遣を調整 ・要配慮者の対応 | ○物資配布 ・避難所物資配布 ・職員に運搬依頼 | ○情報収集、発表 ・道路通行止め ・公共交通機関等 | ○道路冠水等確認 | ○避難所開設 ○物資配布 ※他課への協力 |
| 台風接近 | 半日前 | ○土砂災害警戒情報 ○氾濫危険情報等 ○避難指示発令 ・気象台に状況確認 ・消防、警察等と情報 共有 | ○避難を完了させる ・避難状況の報告 ・交代要員の調整 | ↓ | ○情報収集、発表 ・道路通行止め ・公共交通機関等 ・避難所開設状況 | ○土のう等対応 | ↓ |
| 台風上陸 | 0時間 | ○氾濫発生情報等 ・関西電力に状況確認 ・気象台に状況確認 | ○避難状況の把握 | ○配布状況の把握 | ↓ | ○被害状況の把握 | ○被害状況の把握 |
| 警報解除 | 半日～ 1日後 | ○被害調査まとめ ・防災行政無線放送 ・県防災情報システム | ○避難所閉鎖 ・避難状況報告 ※被害程度により 災害見舞金等 | ○物資回収 ・使用物資の報告 ・義援金等の分配 ・災害廃棄物処理 | ○情報収集、発表 ※被害程度により ボランティアセンターの 設置を検討 | ○被害調査(施設) ・所管施設等の 被害調査報告 | ○被害調査(町内) ・左記以外の町内 被害調査報告 ※被害により住 被害調査要 |

◎自治会単位での啓発活動・ワーク
ショップの実施・出前講座等の実施

- ・自主防災活動補助事業の啓発など
- ・HMを用いた浸水区域等の確認など
- ・古座川流域の学校等を対象とした出前講座の実施など

◎タイムラインの検証と改善

ワークショップや出前講座を実施するなかで課題等を検討し、行動計画を検証しつつ、必要に応じて改善していく。

取組内容

- ②水防に関する事項
 - 避難時間確保のための水防体制の強化
 - ・水防訓練の実施

●令和4年度 熊野川総合水防演習

取組概要

令和4年度 熊野川総合水防演習

○開催概要

目的：災害時における水防活動の実効を期し、水防思想の普及・徹底を図り、水防に対する住民の理解と協力を深め、水害の未然防止・軽減に資する事を目的とする

開催日程：令和4年5月28日(土)

開催場所：熊野川河川敷（予定）

主催：令和4年度熊野川総合水防演習実行委員会
 (国土交通省近畿地方整備局、和歌山県、三重県、新宮市、田辺市、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町、熊野市、紀宝町により構成)

(参考) 平成22年度 紀の川合同水防演習



・開会式

(参考) 平成22年度 紀の川合同水防演習

状況写真

・水防訓練(積み土のう工)



・埋没車両救助訓練



・半埋没家屋救助訓練



・河川内孤立者救助・緊急搬送訓練



取組内容

⑤河川管理施設等の整備に関する事項

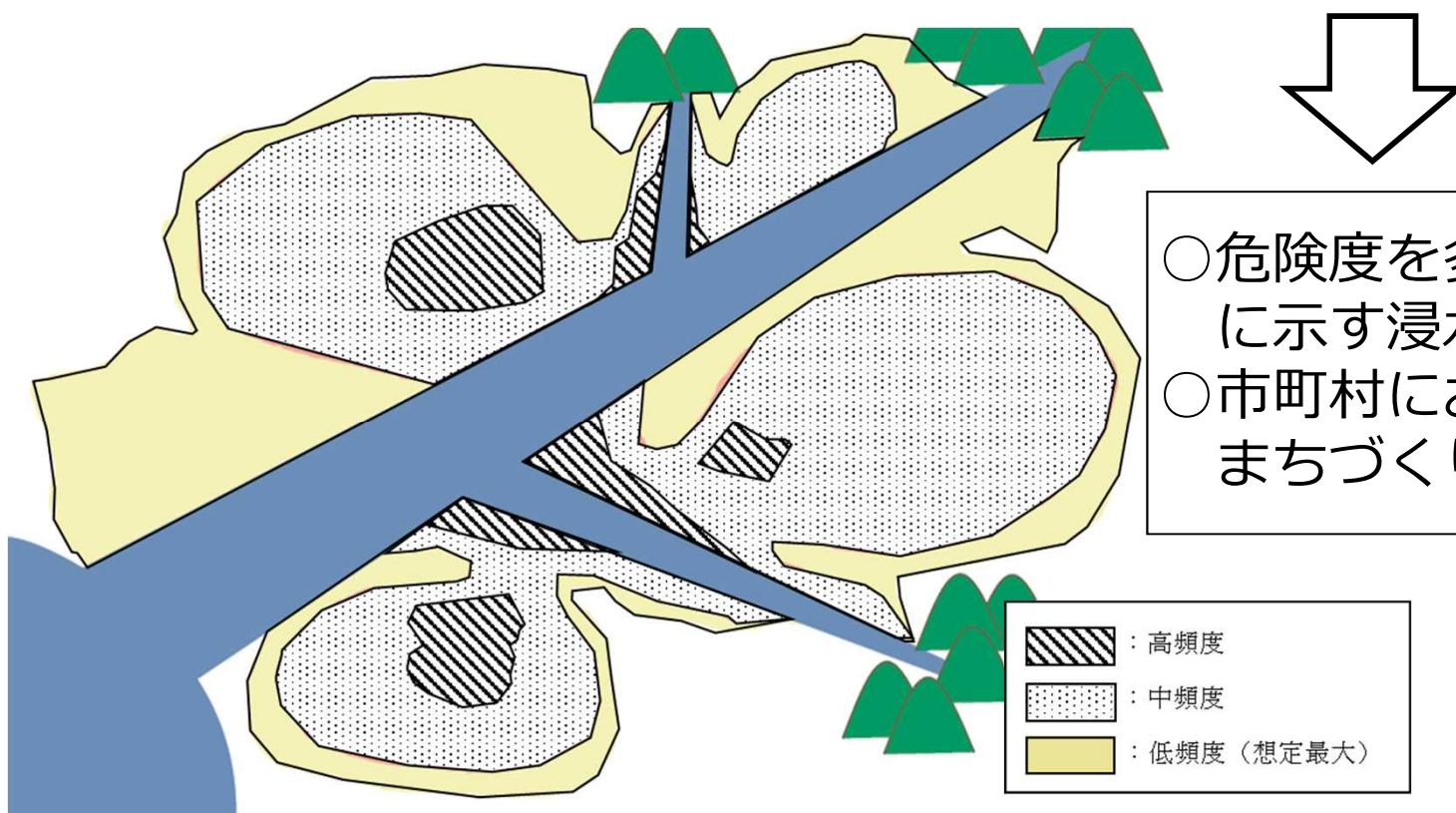
■流域対策に関する取組

・まちづくりでの活用のための多段階の浸水想定区域図の作成




●水害リスク情報の高度化

取組概要

- 洪水予報河川及び水位周知河川における想定最大規模・計画規模の浸水想定区域図を作成・公表済み。
- 令和3年度より中小河川においても想定最大規模の浸水想定区域図作成を進めており、避難を目的に浸水する範囲、水深の周知を予定。
- これらの情報は、水害時の円滑かつ迅速な避難を確保する目的で作成されており、相対的な土地リスクの違いが分かりづらく、まちづくりの検討に活用しづらい。



- 危険度を多段階的（高頻度、中頻度等）に示す浸水想定区域図を作成
- 市町村における避難行動の検討や、まちづくり等に活用

| | |
|---|-------------|
|  | : 高頻度 |
|  | : 中頻度 |
|  | : 低頻度（想定最大） |

【危険度を多段階に示した浸水想定区域図イメージ】